

国際理解教育/開発教育 学習指導（活動）案

【実践者】

授業者氏名	高崎 恵子	学校名	墨田区立吾嬭第二中学校
教科（科目）・領域	国語・総合的な学習の時間	対象学年（人数）	1年 3組（32名）
実践年月日もしくは期間（時数）	令和3年11月～12月（8時間うち国語6時間）		

【実施概要】

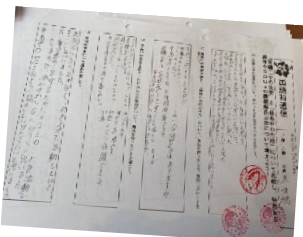
1. 単元名(活動名) : 「不便」の価値を見つめ直す・根拠を示して説明しよう(光村図書 1年) ～調査結果を活用して「吾嬭二中の生活」を紹介する資料を作ろう～					
2. 実践する教科・領域 : 国語	3. 学習領域				
		1	2	3	4
	A多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
	Bグローバル社会	相互依存	情報化		
	C地球的課題	人権	環境	平和	開発
	D未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	
4. 単元の目標(評価規準を意識して設定) : ・比較や分類、関係づけなどの分類のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。〔知識及び技能〕(2)イ ・根拠の適切さを考えて説明や具体例を加え、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)ウ ・文章の構成や展開を粘り強く考え、学習の見通しをもってプレゼンのためのスライドを作成しようとしている。 〔学びに向かう力、人間性等〕					
5. 単元の 評価規準	①知識・技能	意見と根拠など情報と情報との関係を理解し活用している。(2)イ)			
	②思考・判断・表現	「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加え、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ)			
	③主体的に学習に取り組む態度	粘り強く根拠の適切さを考え、課題に沿って資料を調べ、発表資料を作成し学習の見通しをもってスライドを作成しようとしている。			
6. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	【単元設定の理由あるいは単元の意義】 学習指導要領総則の解説には、予測困難な社会の変化に対応できる力を育てることが重要と記されている。今後ますます社会は複雑に変化し、多様性が増していく中で必要な情報を取り出し結び付ける視点を持ち、柔軟な発想を生み出す力が求められる。また、主体的に社会と関わり、感性を豊かに働かせることも必要である。「言われたから」「決まっているから」ではなく、自ら考え、取り組んでいことする学習への関心や動機づけは、社会に主体的にかかわる原動力である。 本単元では、「不便の良い面」「便利の悪い面」に整理し、自分なりの「不便の価値」を考えることが目標になっている。固定観念にとらわれずに考える題材として、学校生活を身近な課題として置き換え中学校の価値について深く考えることによって国語の力である分類の仕方や引用の仕方を身に付けさせたい。 総合的な学習の時間の目標として、SDG s のゴール4「質の高い教育」の解決策とは何かを考えることを通して、世界や国内の様々な課題について理解し、人権尊重教育推進校の生徒として、他者を尊重し自分の意見を発信し行動できる生徒の育成を目指したい。学校の生活は地域に関わっていることを理解することで卒業後も地域社会の一員として、社会に貢献できる人材の育成につなげていきたいと思い、本単元を設定した。 【児童/生徒観】 1年生は、5月に「情報を集めよう・読み取ろう・引用しよう」の単元でSDG s の17のゴールについて調べ、最も重要だと思うゴールについて発表することをジグソー学習で行っており非常にSDG s への興味・関心が高い。これを利用することで、国語の比較・分類や関連付けの力を高めたい。また、持続可能な社会の一員として何ができるかということには具体的なイメージがもてない生徒も多い。人前で発表する機会も少ないため、				

	情報の扱い方について情報と情報の関係について理解し活用することや大きな声で発表することに抵抗がある生徒も多い。地域を理解し特色ある教育をコンピューターや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設け指導の効果を高めるよう工夫したい。主体的に推進することを通して自分の行動が地球を守ることに繋がっていることに気付かせ行動力を身に付けさせたい。 【教材観】 本教材の目標は、「必要な情報を取り出し、結び付けて要約する。」「筆者の主張を要約し、それに対する自分の考えをもつ。」「根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるよう工夫する。」である。 筆者は従来の固定概念に疑問を持ち、「不便のよい面」と「便利の悪い面」という新たな視点を投げかける。その主張を伝えるために、言葉の定義を行い、根拠を示し、論を構成している。伝えたい情報をどのように組み立て構成しているか筆者の立場に立って捉える。また、調査の統計資料や、アンケートの結果、本や新聞の記事等の引用をすることで説得力ある形で、自分の考えを主張する活動を通して、根拠を示すことの意義を捉えさせたい。一見正しいと思えることも、視点を変えてみると真逆の意味をもつことがあることを実感させることで多くの人が支持する意見が決して正しいわけではなく、勇気をもって自分の視点で捉え直し、根拠を明確にして深く考え、課題解決の実現のために相手に伝えることの必要性を捉えさせたい。 学習指導要領の教材についての配慮事項の観点の（２）ク「広い視野から国際理解を深め、日本人としての自覚をもち、国際協調の精神を養うのに役立つこと。」の事項に配慮している。 【指導観】 本単元では、生徒たちが最も身近な学校の世界や国内の島での生活の理解を通して、国語の比較・分類や引用の力を身に付けるとともにゴール４「質の高い教育」とは何か、世界の教育課題・自分たちの教育課題について深く考え、自ら主体的に学ぶ意志を育てることを大切に教材を工夫する。そして、単元の中で身近な「中学校生活を紹介する」パワーポイント資料やレポート作成を通して、自分の意見を他者に発信する力を身に付けさせたい。 指導の際には、生徒の学力差や生活経験の差があることも留意し、ジグソー学習を基本として、写真や読み物資料を用いてオンラインを活用したアクティブラーニングで行う。 このような国語科や総合的な学習の時間の学習経験を通して、自分自身の学校生活を見つめ直し、自分たちの意志で今年1年の学びを今後の学校生活全般に生かしていこうとする態度を育てたい。
--	--

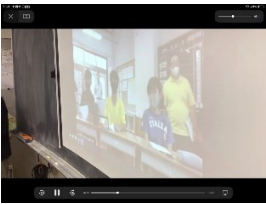
7. 単元計画（全8時間）

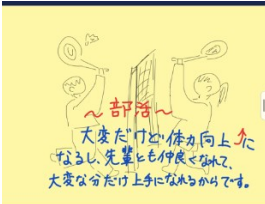
時	ねらい	学習活動	資料など
1	- 本文『「不便」の価値を見つめ直す』と『根拠を示して説明しよう』を読み〈説得力のある文章を書くときのポイント〉について理解する。 - 日本と世界の学校の違いについて資料を活用して考える。	『根拠を示して確認しよう』について、ロイロノートで配信し〈説得力のある文章を書くときのポイント〉を確認する。 - 本文を読み、「便利の良い面・便利の悪い面・不便の良い面・不便の悪い面」について考え、「不便益」の定義と事例を読み取る。 - 教師が作成した「学校・子ども」に関する新聞の投書を読み、それぞれの意見と根拠を整理する。 『アイシャちゃんの日』『みんなの学校プロジェクト』の資料を読み、日本と世界の国のSDGsのゴール4（学校教育）の視点で課題の違いを考える。 - それぞれの資料を比較分類する方法をグループごとに考えてロイロノートで発表し、学級全体で共有する。 - 全国の中学校生活についての実態調査やクラスの友達へのアンケート調査結果を	資料番号1 ・mundi 2015年4月号『アイシャちゃんの日』 ・JICA2-1映像教材 課題解決のための「みんなの学校プロジェクト」 ・ユニセフのSDGs副教材 ・新聞記事資料番号2 2021/4/19 天声人語 2020/3/22 朝日新聞 ・『根拠を示して説明しよう』で調査した図表

		整理・分析し、そこから何が言えるのかを考える。	
2	- 客観的に自らの学校生活の状況を把握することができる。 - 相互評価を踏まえて振り返らせる。学習状況を把握し調整することができる。  作成したアンケート	「吾婦二中の学校生活」に関する自分の意見と根拠を、「不便益」の4観点のワークシートに整理する。 - それぞれの情報が掲載されている理由や情報の示され方について考える。 4人程度のグループで、互いの根拠の適切さについて以下の二つの観点から相互評価を行い、自分が整理した意見と根拠の関係について振り返る。 ①根拠が確かな事実や事柄に基づいているか。 ②意見がその事実や事柄に対する適当な解釈から導き出されているか。 - 掲載したい情報とその情報を掲載する理由、情報の収集の方法、情報の示し方について話し合う。 - 各班でロイロノートを使って、アンケートを作成し、中1の情報（例：小学校より難しくなった教科、校則、登下校のマナーなど）を収集し共有する。	- 学校説明会資料 「不便益」のワークシート 資料番号3 生徒作成 資料番号4 - 新聞記事資料番号2 2016/2/25 天声人語
3	自分の根拠を強くするために、他の事実を粘り強く調べて情報を活用できる。 1 回目の資料 文字数が多い 1. スマホをどのくらい触っているか 	- 地域（八広小学校 6 年生）や他校（小笠原村立母島中学校）に向けて発表する資料として説得力のある文章となるよう、さらに情報を集めてパワーポイント資料を作成し改善策や自分の考えをロイロノートに書く。 - グループごとに資料を共有し、〈説得力のある文章を書くときのポイント〉に沿って記述することができているかについて相互評価を行い、必要に応じて修正する。 - 場合によっては、八広小学校 6 年生にどのような情報があると便利か取材する。（6 年生の担任に電話でインタビューを行う）	「すみだリーディングファクトリー」の資料、特色ある教育の資料資料番号5  パワーポイント資料 1 回目作成したもの
4	〈説得力のある文章を書くときのポイント〉を意識して試行錯誤したことなど、観点を明確にして資料をまとめることができる。 - 発表に向け、客観的に自らの学習状況を把握し、相互評価を踏まえて助言することができる。	- 前時に修正して改善されたパワーポイント資料（〈説得力のある文章を書くときのポイント〉が明確になるような文章）を班ごとに発表し、修正前の資料と比べ、どこがよくなったのかを考えアドバイスをを行う。 - 自分の文章について自己評価、相互評価を行いこれまでの学習の進め方を振り返える。（宿題） - 母島中学校の生活について、資料を活用して質問を考える。	- 小笠原村観光サイト  - ユネスコ世界遺産 - ワークシート
5 交流	- 地域の産業や自分の学校に誇りを持ち、分かりやすく人に説明することができる。 - 異なる文化に触れ、自分の	- 小笠原村立母島中学校の生徒に向けて「吾婦二中の生活」についてロイロノートで双方で発表を行い、「不便益」について意見交換を行う。 - 中学校生活が、地域によって異なることや	- 班発表で作成したスライドを母島中学校と共有する。 - ワークシート

	考えを広げる。アクティビティ学習を行う。  母島中学校と交流授業の様子	SDG s のゴール達成に向けて中学生ができることがたくさんあることに気付く。(宿題) 交流した内容の感想を含め、SDG s ゴール4について、新たに感じたことや考えたことをロイロノートで提出する。	ゴール4について 								
6 本時	- 第5時の学習のビデオや感想を確認し、交流した内容を踏まえて深く考え、他校からの助言を自分の資料の文章に生かす。 - 他の班の発表を聞き、質問したり、意見を述べたりすることをレポートにまとめることができる。 	- 世界・国内での学校生活の違いについて再確認するとともに、地域の良さや本校の特色について考える。 - 班ごとにゴール4の質の高い教育を推進するために必要なプログラム「不便益を楽しむデザイン」を考え、具体例を参考にし、ロイロノートでクラスに提案する。 - 今後の学習や生活に生かしたいことと事実と意見の結び付きを考え、文章を書き直す。根拠となる調査結果は、数値や出典を示して具体的に書かせる。	- 母島中学校の紹介、本校の発表スライドのビデオ 〔具体例〕 - 本校生徒会の写真 - 図書委員会の幼保小へ向けた英語の絵本読み聞かせの写真 「不便益のものさし」 - ペンケース - ワークシート								
7 総合的な学習の時間	資料を根拠として引用し、説得力あるポスターやビデオを作成し発信することができる。 	- 提案されたプログラムを含めてビデオやパワーポイント資料を再作成し、地域の八広小学校に紹介する準備を行う。 - 班ごとに改善したポイントを説明し、分かりやすい伝え方について自分の考えをまとめる。	- NHKデザイントークスプラス「不便益」映像資料 - 新聞記事資料番号6 2021/ 3/23 朝日新聞 2019/11/24 朝日新聞								
8 総合的な学習の時間	本実践の学習のまとめとして、各クラスで八広小学校の6年生にオンラインで交流授業を実施し、「吾嬬二中の生活」を紹介することができる。	「吾嬬二中の生活」をわかりやすく紹介し、小学生からの質問に答えることで、よりよい学校づくりしていこうという気持ちをもつ。 ～中学校のテスト～定期テストについての紹介 定期テストとは - 学校で年に4年行われる、成績に関わるとても重要なテスト - 皆んな努力し、良い結果が出せるよう、励んでいる  <table><tr><td>6 月</td><td>前期中間考査</td></tr><tr><td>9 月</td><td>前期期末考査</td></tr><tr><td>11 月</td><td>後期中間考査</td></tr><tr><td>2 月</td><td>後期期末考査</td></tr></table>	6 月	前期中間考査	9 月	前期期末考査	11 月	後期中間考査	2 月	後期期末考査	最終的に作成した パワーポイント 資料資料番号7
6 月	前期中間考査										
9 月	前期期末考査										
11 月	後期中間考査										
2 月	後期期末考査										

※3 学期にベトナムの子どもたちに絵本を贈るプロジェクトやユニセフ募金の活動につなげる。

8. 本時の展開（概略）			
本時のねらい：自身の学校生活の大切さについて深く考えとともに、「吾婦二中の生活」について紹介することで、地域に誇りをもち、一人一人がSDGsの問題解決に向けて何をすべきか自分なりの思いをもつ。			
過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (10分)	1 前時（第5時）で実施した母島中学校の友達の意見についてのビデオを視聴し、本校の特色ある教育についての自分の考えをロイロノートでアウトプットする。 「母島中学校は、SDGsのゴール14についての課題と実践を発表してくれましたね。」「振り返ってみるために、宿題で提出してくれたロイロノートの感想を紹介します。」 ・環境教育に力を入れていてびっくりした。 ・同じ東京でも学校生活が全然違った。	・母島中学校は、世界自然遺産の島であり、環境保全のための活動を学校行事の中にたくさん取り入れていることに触れる。	・母島中学校の紹介、本校の発表スライドのビデオを確認する。  小笠原村立母島中学校
展開 1 (10分)	2 本校がゴール4（質の高い教育）を達成するための「不便益」について、ロイロノートのシンキングツールを使って考える。 ①生活面 ②学習面 ③行事 ④部活や地域のボランティアなど課外活動 ⑤人権教育 「小学6年生に本校の特色ある教育をわかりやすく伝えるには、何をアピールすればいいでしょうか。「不便益」の視点で考えてみましょう。」 「①生活面での不便益は何でしょう。」 ・校則が厳しいです。 ・社会のルールを学ぶために必要です。 「②学習面での不便益は何でしょう。」 ・学習が難しいこと。 ・将来のためには絶対に必要なもの。 「③行事での不便益は何でしょう。」 ・準備の手間がかかる。 ・非日常の体験ができる。達成感がある。 「④部活やボランティアなどの課外活動の不便益は何でしょう。」 ・学習時間が減る。土日がつぶれる。 ・熱意をもって個性や才能が伸ばせる。 ・いろいろな経験が生かせる。推薦に有利。 「⑤人権教育の不便益は何でしょう。」 ・学習時間がとられる。	例：②について、中学3年生は、受験前に地域の方が「地域ふれあい面接」を実施してくださることを説明する。 ⑤地域の資料室について学んだことを振り返る。 ・時間を決めて、議論の時間を取る。	  生徒共有で考えをつなげる。

展開 2 (20分) まとめ (10分)	・世界人権宣言やジェンダー平等は必要。 ・地域の皮革の伝統文化を守ることは大切。 3 班ごとにそれを達成させるためには、地域の方々と協力してどんなプログラム:「不便益を楽しむデザイン」に取り組んでいくべきかについて話し合い、発表資料を作成する。 ※具体例として、生徒会、図書委員会の幼保小へ向けた写真、「不便益のものさし」、皮革体験で作成したペンケースを見せ、考えさせる。 「本校の特色ある教育を推進し、皆さんの考える「不便益」をより良いものにするために、地域の方々と協力して、どんなプログラムを実践すればいいでしょうか。班で考えたアイディアを20分後に発表してもらいます。」 ・中1のアンケートで難しくなった教科の先生にインタビューし、学習のポイントを入れる。 ・中学校で作ったペンケースを八広小に見せる。 ・放課後の時間の使い方を紹介する。 ・八広小と一緒にボランティア活動を行う。 4 生活面・学習面などの分野ごとにいくつかの班にロイロノートで発表させる。 5 発表後、学校の価値について考えたことや、最初に作った資料から改善したポイントについて、ロイロノートにまとめて提出する。 6 本日の授業を振り返り、次回の予告を行う。 「次回は、提案されたプログラムを入れたビデオを作成します。」	・同じ意見をもつグループに再編する。 ・できるだけ多くの班を発表させる。 ・宿題としてロイロノートで提出させる。 ・全体で発表した生徒の振り返りとともに、次時の活動のために何が必要であるかを確認させる。	 再編したグループでアイディアを出し合う 生徒の「不便益を楽しむデザイン」の例 テーマ 学習 テスト勉強 楽しむデザイン テスト勉強は、大変でやりたくない人も大勢います。だからクラス全体でクイズ大会や、クラス全体の合計得点でクラス対抗テストの得点競争などで勝ったら賞状を渡したりすることでみんなが頑張るんじゃないかな、と思いました。 
9. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法） ①「吾婦二中の生活紹介」の根拠となる確かな事実や事柄を具体的に記述している。（ロイロノート） ②意見を導き出している「事実や事柄に対する適当な解釈」を具体的に記述している。（ワークシート） ③他校（世界・母島中学校）を理解した上で地域に誇りをもち一人一人が何をすべきか、自分なりの思いをもち自ら積極的に意見を発信することができている。（話し合い活動）			

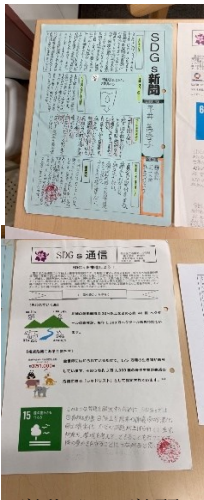
10. 学習方法および外部との連携 単元を実施するにあたり、幼保小中連携担当として、近隣の八広小学校の担当者と 6 年生の担任と話し合いを行い、中 1 ギャップの解消に繋がる具体的な方策として、小学 6 年生が不安に思っていることや、知りたいと思っていることを中学 1 年生が実際に解決策を見つけていくことで説得力のあるスライド資料の作成ができると考え、同じ考え方の生徒を再グループにして学びを広げるジグソー学習の手法で行った。また、地域のひきふね図書館と連携し、資料をご準備いただいた。 JICA の指導者講習で同じグループの小笠原村立母島中学校の平井先生のご協力のもと、同じ日本の東京都の中学校でも、特色ある教育に違いがあることや SDG s のゴール達成の取り組み方はさまざまであることをお互い理解し、地域の良さを知ってほしいとアクティビティを設定した。
11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み ・墨田区指導事例集への参加 (2021/8) ・JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト 2021 中学生の部 学校賞受賞 (2021/12) ・八広小学校への学校紹介の交流授業 (2021/12) ・墨田区幼保小中一貫教育フォーラム重点校の実践発表 (2022/1)

【自己評価】

12. 苦労した点	学習指導要領の国語の目標を踏まえて、総合的な学習の時間の要素の強い課題について、生徒の資質・能力を育成する指導案の作成することに非常に時間を要した。本指導案の単元計画の中で、教科書の構成や配列を生かして基本的なねらいと国語科の指導内容を身に付けさせることと、本校の教育計画に合わせて SDG s との関連を図って指導計画を立てた。そのため、生徒のスライド作成は宿題にするなど、授業時間以外での工夫が必要になった。そして、学習のまとめは総合的な学習の時間に八広小学校と交流授業を行うことで実施した。
13. 改善点	自分の意見をもったうえで、グループでの活動時間を確保したが、事前に宿題にする形で実践を行うことで、さらに授業での意見交流の時間を確保できると考えられる。また、SNS ルールを徹底したうえで、生徒間共有をもっと早く活用すれば良かったと思っている。明確な目的があれば、情報共有システムを前向きに活用することができると考えられる。「不利益のデザイン」について、さらに具体的なデザインを作成する機会を設定することが考えられる。
14. 成果が出た点	1 学期に学習した SDG s について、「ジブンゴト」として捉えようと特に食品ロスについては努力していた。しかし、「教育」の大切さについて、国語で資料を比較・分類・活用する力を身に付けることで、世界の現状や母島中学校の環境教育について深く考えることにつながった。知ることで、「ジブンノガッコウ」の「教育」について深く考え、自分たちでより良い学校にしていけるためには何をすべきかをこの授業を通して考えることができたのは成果である。 また、前述の 12. の項でも述べた国語の時間にどこまで内容に踏み込むべきか、教科書の題材をうまく工夫することで、生徒は学ぶ意義を見出し積極的に取り組んでいくことが実証できたことも大きな成果である。実際、総合的な学習の時間で八広小学校の 6 年生に「吾輩二中の生活」を説明する授業では、さらにブラッシュアップしたスライドを作成し、6 年生の質問にも積極的に答える生徒の生き生きとし

た様子が見られた。6年生からも「中学校に行くのが楽しみになった。」「知っている先輩の言葉を聞いて中学校のことがよくわかってよかった。」と感想をいただいております。小中のスムーズな連携を生徒主体で行うことができた。交流授業・協働授業の学習を通して、生徒の思考がポジティブに変容していくことが記述からも伺えたことは大きな成果である。

15. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)



1 学期調べ学習

【1 学期の学習の様子】

SDGs について何ができるか考え、食品ロスについて考える生徒が多かった。



給食委員会の残菜ゼロキャンペーン



班ごとに選んだゴールについて発表

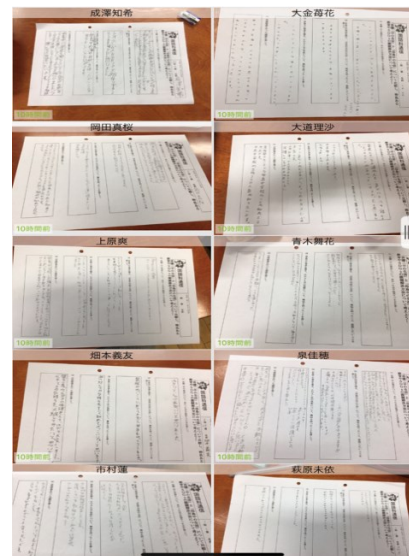
【実践前の初読後、学校の「不便益」のイメージ】 アンケートの自由記述より

- ・校則や定期テストなど、不便なことが多く、「不便益」はない。
- ・小学校に比べて忙しいので、便利か不便かなんて考えたことがない。
- ・「不便益」という考え方を知ることができてよかった。

【実践での変容が見られた生徒の発言】



班での話し合いの様子



ワークシートの記述

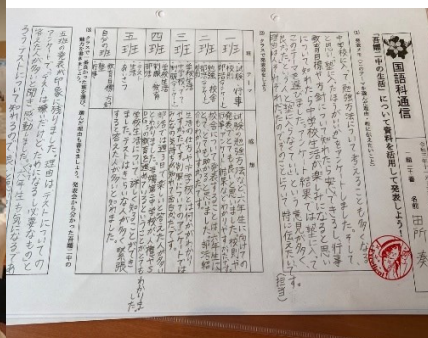
- ・母島中学校の皆さんは、具体的にウミガメの卵を保護する活動を行っているのに、私たちは、質の高い教育のための具体的な活動をするべきだ。もっと小学6年生の必要な情報を厳選して伝える努力をするべきだと思った。
- ・ゴール4の質の高い教育を推進するのは、発展途上国に寄付などの支援をすることしかないのかなと思っていたけれど、中学校に不安なく入学して過ごしてもらう

ことも必要な支援だと思った。(自分が小6の時不安だったから)

・クラスのアンケートをやってみて、私は制服は絶対嫌だったけれど、制服が楽でいいと思う人が半数いてびっくりした。友達の考えは話したり、調べたりしないとわからないと思った。

・校則のどこを改善すればいいのか具体的に考えるきっかけになった。

【本実践のまとめに対する生徒の記述】



総合的な学習の時間 八広小学校との交流授業とまとめワークシート

・八広小学校の6年生が説明を一生懸命聞いてくれたので、たくさん調べたかいがあると思った。また、他の機会に発表してみたい。

・交流授業は、いろいろな人と意見を交流することができるので、相手の意見をしっかりと聞くことの重要性や自分の考えを持つことの大切がよくわかった。

・中学校についていろいろ考えることで、自分も知らなかった学校の良さに気づくことができよかった。自分たちの力で学校をよくしていきたいと思った。

・必要な情報を探して発表することに慣れてきて、授業が面白いと思った。

・アンケートを作ったり、結果を分析したりすることが楽しかった。他の教科でも使ってみたい。

・学校に行くことで、学習以外で様々な側面から学ぶことがあることに気付けたことが良かったと思う。

16. 授業者による
自由記述

開発教育について総合的な学習の時間で特別に取り組むのではなく、人権尊重教育推進校として積極的に国語科として扱いたいと思っていた。SDG sを各教科が生徒に示すことは、学校で取り組んでいる諸活動とのかかわりに気づき、活動を価値付けて活動意欲が向上したり、大人になって持続可能な社会の一員として地域に貢献したりすることにつながる。教育課程を編成するうえで教師自身が SDG sを意識し多角的・多面的なカリキュラムマネジメントを行う必要があると考える。

参考資料

- ・新聞記事 2021/4/19 天声人語 朝日新聞、2016/2/25 天声人語 朝日新聞、2020/3/22 朝日新聞、2019/11/24 天声人語 朝日新聞、2021/3/23 朝日新聞
- ・NHK デザイントークスプラス「不便益」映像資料 www.nhk.jp
- ・JICA 2-1 映像教材 課題解決のための「みんなの学校プロジェクト」 www.jica.go.jp
- ・mundi 2015年4月号 『アイシャちゃんの日』
- ・「すみだリーディングファクトリー」 www.city.sumida.lg.jp
- ・「吾嬬二中の生活」学校説明会資料
- ・ユニセフのSDG s 副教材 www.unicef.or.jp